

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 プロシード・アーツ
公演団体名	関西演芸協会

内容
<p>ワークショップ内容</p> <ul style="list-style-type: none">■初めて上方演芸を鑑賞する人のために（寄席の名前を考えよう！）■漫才とは。実演と解説（言葉遊び～アイウエオ作文）■落語とは。実演と解説（お茶子さんの働き）■寄席囃子とは。実演と解説（一番太鼓の実演）■漫才『お楽しみ』（漫才のプレ実演） <p style="text-align: center;">休憩</p> <ul style="list-style-type: none">■本公演時に共演する児童・生徒のみなさんへご指導を行います。 <p>①寄席の名前を考えよう（ワークショップ参加者全員で体験） 学校に寄席を呼ぼう！というテーマで、「□□□□ 寄席」と言うように寄席の名前を考えて下さい。みんなで考えた寄席の名前は本公演まで大切に使ってゆきます。 ⇒ 本公演では「□□□□ 寄席」という名称で公演します。 寄席のシンボル 提灯に名前を入れて入口を飾ります。</p> <p>②一番太鼓（参加人数2名～30名） ワークショップ時に練習した一番太鼓の発表の場です。 開場時に開演を告げる一番太鼓を子ども達に力一杯叩いて頂きます。 ⇒ 本公演では入場時に落語家と共に太鼓を打って頂きます。 フロアスペースで距離を取って活動します。</p> <p>③先ほどの実演で演奏しました『一番太鼓』は、簡単なメロディを何度も繰り返し打つ事が特徴です。1フレーズを交代しながら、入場終了までの間、打ち続けます。本公演までの期間お貸した撥・簡単な楽譜・DVD を使ってお稽古して頂きます。</p> <p>④お茶子さん修行（参加人数2名～6名） 高座の座布団の返し、名びら（めくり）の返し、見台 膝隠しの上げ下げなど上方落語のしきたりに乗っ取ってお茶子さん修行をしていただきます。 ⇒ 本公演では舞台転換時にお茶子さんとして活動します。 状況によっては 割愛の可能性もあります。</p> <p>⑤ 寄席を円滑に進める進行役 お茶子さん。本公演の進行表に基づき、ワークショップで事前指導の上、DVD などでお稽古して頂きます。</p>

④あなたも今日から漫才師

(参加人数2名～6名)

漫才にはボケ役とツッコミ役があり、2人の当意即妙な言葉のキャッチボールが上方漫才(しゃべくり漫才)の真骨頂です。ショートストーリーを2人考え、2人で稽古(ネタあわせ)し、発表します。2人のコンビ名も考えて下さい。

⇒ 本公演では舞台の上で創作漫才を発表します。

状況によっては 客席スペースからの発表の可能性もあります。

㊦ ワークショップ事前指導時に、わかり易い創作漫才のテキストとDVDをワークショップに参加する子どもたちと指導する先生方に配布いたします。そのテキストを基に漫才を構築してゆきます。本公演までの間、進捗状況を確認しフォローアップいたします。

⑤大喜利 ～ アイウエオ作文に挑戦 ～

(参加人数5名～6名)

名前の頭文字からイメージを膨らませるリレー方式の言葉遊びです。みんなで決めた寄席の名前の頭文字を取って、ひとりひとりが短文を創り一つのお話を作るという創作体験です。起承転結を考え、みんなで連携しながら、一つのお話を創り上げて行く所が、アイウエオ作文の醍醐味です。

例文 身近な町名を使って『扇町寄席～おうぎまち～』で アイウエオ作文を創ると

お 大きな夢に向かって
う 上手くいかない時だって
ぎ きっと大切なのは希望を持つ事
ま 真っ直ぐに進もう
ち チャンスは必ずやって来る！

⇒ 本公演では舞台の上で5名一組でアイウエオ作文を発表します。

状況によっては 客席スペースからの発表の可能性もあります。

㊦ ワークショップ事前指導時に、大変わかり易いアイウエオ作文創作方法のテキスト・DVDをワークショップに参加する子どもたちと指導する先生方にお渡しします。記入形式のテキストに書き込みながらお使い下さい。

通常のワークショップの活動内容はこのような内容となりますが、新型コロナウイルス感染の影響を受け、内容を変更しなければならない場合、学校様のご様子とご要望に従い下記の～ワークショップへの参加の仕方～から取り組み方をご選択いただきます。

◆ ワークショップへの参加の仕方 ◆

①通常通りのワークショップ活動をする場合

前半は全員で活動。後半は体育館を大きく4つのエリアに分け、児童・生徒のみなさんとソーシャルディスタンスを守りながら活動します。講師の指導を受けた後、テキスト・DVDの配布をいたします。本公演までの活動支援は電話やFAX・メールなどで定期的に行います。公演当日、約30分程度リハーサルと最終打ち合わせを致します。

◆ コロナウイルス感染症対策として訪問回数を減らす場合 ◆

②本公演当日の午前中に活動する場合

舞台設営等の理由で、体育館の使用が難しい場合、視聴覚教室などの教室で活動を行います。事前にテキストや DVD を配布してあります。ワークショップの活動時間は約 70 分程度です。講師が演芸の鑑賞ポイントをお話したり、漫才の作り方や工夫をレクチャーします。一番太鼓を参加者全員で打つ体験も盛り込みます。本公演では、創作漫才・アイウエオ作文と一番太鼓で共演して頂きます。

③本公演の中にワークショップを盛り込む場合

学校様へ事前にテキストや DVD を配布いたします。本公演の当日は、入場時間の 10 分程前に集合いただきます。一番太鼓と創作漫才・アイウエオ作文の簡単な説明と共演のタイミングを打ち合わせした後 そのまま一番太鼓の共演を開始します。共演については学校様のご都合に合わせて割愛することも出来ます。児童・生徒全員で落語の仕草を実演体験して頂く時間も設けています。

④非接触型ワークショップを希望する場合

講師は舞台の上 児童・生徒のみなさんはフロアからとゾーン分けを徹底します。その場合、ワークショップの内容は主にレクチャーを中心として、全員がフロアから参加出来る様な内容にします。

⑤ビデオワークショップを希望する場合

本来、学校にお伺いして指導するのがワークショップですが、新型コロナウイルス感染症拡大の為 訪問することが難しい学校様には ビデオワークショップを提案します。創作漫才・アイウエオ作文・一番太鼓の DVD とテキストを郵送します。テキストを基に本公演に向けて課題に取り組んで頂きます。

⑥複数の学校が共催される場合

人流の抑制という観点で共催校と主催校と一緒にワークショップ活動出来ない場合 同一の日にちの中で、2つの学校を訪問する予定です。その場合、各校で独立した取り組みが出来る様、参加内容を分けて活動します。主催校で本公演を実施いたしますので、各校の取り組みに従って共演して頂きます。

●各学校の要望に従いワークショップの参加方法を工夫をいたします。

ワークショップの内容に基づき、参加の仕方 や 参加内容の工夫 等 各校のご事情に 合わせて選択頂けます。各校と綿密な連携の上 ワークショップにご参加頂きます。また、講師（出演者）スタッフ一同、フェイスマスクの装着 等、対策を講じて、新型コロナウイルス感染症持ち込まないよう 精一杯努力致します。

◆ 新型コロナウイルス感染症対策として ◆

学校への配慮

① 換気の悪い密閉空間は創らない

体育館は暗幕を閉めず全ての窓を開放し、常に新しい空気が入る様換気して下さい。換気を心掛けた体育館でお話を聞きます。出演者は舞台上、児童・生徒のみなさんはフロアです。

② 多数が集まる密集空間は創らない

人と人の距離に配慮し、ゆとりを持った空間の中で活動します。出演者は舞台上、児童・生徒のみなさんはフロアで、2m以上の距離を設けます。児童・生徒様も参加人数に従い、ゆとりを持った間隔でお座り下さい。

③ 間近で会話・発声する密接空間は創らない

隣同士・向い合わせ等 密接な距離での指導は避け、拡声器を通す等の工夫をします。本来、ワークショップの参加方法は、前半 40 分；レクチャー 後半 40 分；各班に分かれて活動しますが、各学校の要望に従い 参加方法について工夫をします。

実演者・スタッフの配慮

新型コロナウイルス感染症を持ち込まない を基本姿勢に実演に参加する全員が感染症対策に取り組みます。

① 公共交通機関 等の移動の際は、出来るだけ混雑時間を避けるよう 移動時間に工夫をいたします。車輛移動の際も、車両内が緊密な状態にならないように、ゆとりを持った座席配置で、常に換気を行う努力をいたします。

② 全行程で体調管理表を作成します。出発前に全員の検温と体調報告を行い記入し各校 到着時に報告します。万一、体調不良者（検温 37.5 度以上）がいましたら、ご報告の上、出演者を変更致します。

③ 全員が弊社支給のマスク・フェースガードを装着いたします。また、到着時・ワークショップ開始前・終演後・退出時に必ず手指消毒を励行いたします。

④ 控室も密集密接を避けるために、ゆとりのあるお部屋を用意して頂き、ソーシャルディスタンスを保って行動します。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 プロシード・アーツ
公演団体名	関西演芸協会

演目		
中学生の場合 公演時間 約90～100分 (休憩含む)		
演目	時間	備考
一番太鼓でお出迎え		生徒参加コーナー
寄席お囃子教室	約10分	
漫才	約15分	
古典落語『時うどん』他	約15分	
大喜利 アイウエオ作文発表	約10分	生徒参加コーナー
休憩		
あなたも今日から漫才師	約10分	生徒参加コーナー
色物『太神楽』	約15分	
はめもの落語『七度狐』	約20分	
小学生の場合 公演時間 約80～90分 (休憩含む)		
演目	時間	備考
一番太鼓でお出迎え		児童参加コーナー
寄席お囃子教室	約10分	
漫才	約10分	
古典落語『動物園』他	約10分	
大喜利 アイウエオ作文発表	約10分	児童参加コーナー
休憩		
あなたも今日から漫才師	約10分	児童参加コーナー
色物『太神楽』	約10分	
はめもの落語『七度狐』	約15分	

◆ 新型コロナウイルス感染症対策として ◆

演目への工夫

①児童・生徒との共演について

●一番太鼓でお出迎え

寄席の開場を知らせる一番太鼓。寄席小屋でも玄関付近で若手落語家が一番太鼓を打って観客をお出迎えをします。その慣例に従って、一番太鼓担当の児童・生徒は一定の距離を保ちながら体育館入口に並び、短いフレーズを打って頂きます。

バチは一人一本ずつ持ち替えて頂き、叩き終われば所定の箱に返却し回収します。指導に当たる落語家は、マスクを着用し 距離を保ちながら 子ども達の太鼓をサポートします。

●大喜利 『アイウエオ作文』

笑点と同じく5人の回答者と1人の司会で進めます。司会は子ども達が担当する事も出来ますし、漫才師が担当する事も出来ます。

舞台の上に距離を保ちながら並ぶのが基本形ですが、客席側から発表する事も出来ます。

子ども達の声がしっかりと客席に届くよう 発表の際にはマイクを使って頂きます。舞台中央に据えた広角マイク（C38 マイク）に向かって、一人ずつ 発表します。

●創作漫才

舞台の上で2名（もしくは3名）の子ども達が創作漫才を発表します。舞台中央に据えた広角マイク（C38 マイク）に向かってハの字の向きに並んで言葉の掛け合い・応酬をします。

漫才の基本スタイルは上記の通りですが、学校様のご要望に従い、マイクを2本設置する、二人の間にアクリルパーテーションを置くなど感染症対策を行います。

●お茶子さん修行

お茶子さんは寄席の進行をスムーズに進める重要な役割は果たしています。舞台袖から登場し、出囃子の流れる中、出演者の座布団や名札を返し 次の出番を促します。

通常 お茶子さんは舞台の袖から登場しますが、密を回避する為 フロア前方にスタンバイ頂き、出演者の退場と出囃子をきっかけに舞台上がって頂きます。名札のみ替えて頂くなど お茶子さん修行の一部もしくは全部を割愛する事も出来ます。

②プログラムへの配慮

③学校への配慮

● 換気の悪い密閉空間は創らない

体育館は暗幕を閉めず全ての窓を開放し、常に新しい空気が入る様換気して下さい。換気を心掛けた体育館で鑑賞します。途中、約10分程度の休憩・換気タイムを設けます。そして、出演者は舞台上、児童・生徒のみなさんはフロアです。

● 多数が集まる密集空間は創らない

人と人との距離に配慮し、ゆとりを持った空間の中で活動します。出演者は舞台上、児童・生徒のみなさんはフロアで、2m以上の距離を設けます。児童・生徒様も参加人数に従い、ゆとりを持った間隔でお座り下さい。発表する際の出演者と児童・生徒のみなさんとの距離にも配慮します。

● 間近で会話・発声する密接空間は創らない

近い距離での発声は避け、拡声器を通す等の工夫をします。本来、寄席では演者はマスクを着用しません。今回は 高座台の前にアクリルパーテーションを設置し、飛沫の飛散防止に努めます。また、出演者と子ども達が触れ合う共演部分では、必ずマスクを着用し、距離を保ち、密接な空間は創りません。

出演者と児童・生徒のみなさんとの交流に関しましては、各学校の要望に従い 参加方法について工夫をします。

④実演者・スタッフの配慮

新型コロナウイルス感染症を持ち込まない を基本姿勢に実演に参加する全員が感染症対策に取り組みます。

- 公共交通機関 等の移動の際は、出来るだけ混雑時間を避けるよう 移動時間に工夫をいたします。車輛移動の際も、車両内が緊密な状態にならないように、ゆとりを持った座席配置で、常に換気を行う努力をいたします。
- 全行程で体調管理表を作成します。出発前に全員の検温と体調報告を行い記入し各校 到着時に報告します。万一、体調不良者（検温 37.5 度以上）がいましたら、ご報告の上、出演者を変更致します。
- 全員が弊社支給のマスク・フェースガードを装着いたします。また、到着時・ワークショップ開始前・終演後・退出時に必ず手指消毒を励行いたします。
- 控室も密集密接を避けるために、ゆとりのあるお部屋を用意して頂き、ソーシャルディスタンスを保って行動します。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

派遣人数 11名 内 出演者 7名 落語家 2名
漫才師 2名
太神楽曲芸師 1名
上方お囃子連 2名
スタッフ 4名

タイムスケジュール（標準）**■ 午前1回公演の場合**

前日仕込み(○有・無) 会場準備の所要時間(2時間程度)

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
7:30	8:00～ 9:30	10:30～12:00	10分	12:30～14:30	15:00

※公演時間の目安は、約80～100分です。

※午前公演の場合、前日仕込みを予定しております。前日 17時00分～ 2時間程度準備の為に体育館使用をお願いする場合がございます。但し、前日の状況によって(移動に時間を要する場合など)仕込み時間の短縮や当日早朝仕込みの場合がございます。

■ 午後1回公演の場合

前日仕込み(有・○無) 会場設営の所要時間(2時間程度)

到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:00	8:30～ 10:30	13:30～15:00	10分	16:00～17:00	17:10

※公演時間の目安は、約80～100分です。

※原則的に、前日仕込みは予定しておりませんが、開演時間など相談を要する場合は前日 17時00分～ 一時間程度 準備をお願いする場合があります。

- ◆ 舞台設営完了から本公演までの間に 約30分程度の時間を使って、児童・生徒のみなさんとリハーサルを行います。リハーサル時間は学校様の時間割に従って無理のない時間設定で行います。ご協力をお願いいたします。

実施校への協力依頼人員

- ① 舞台設営完了から本公演までの間に 約30分程度の時間を使って、児童・生徒のみなさんとリハーサルを行います。リハーサル時間は学校様の時間割に従って、無理のない時間設定で行いますので、付き添い役として1～2名の先生方に、お手伝いをお願いいたします。
- ② 公演当日、児童・生徒様による実演体験をいたします。プログラムがスムーズに進むよう、付き添い役として1～2名の先生方に、お手伝いをお願いします。参加の子ども達を誘導したり促したりする協力をお願いします。

演目解説

■ 一番太鼓でお出迎えと上方の寄席囃子でお出迎え (ワークショップ)

子どもたちによる寄席の開場をつける一番太鼓の演奏です。

☞コロナウイルス感染症対策として、子どもたちの参加が困難な場合は、上方お囃子連による一番太鼓をお聞き下さい。

■ 上方寄席囃子教室

上方落語特有の三味線、大太鼓、締太鼓、笛、銅鑼、鉦、拍子木、等、特徴ある邦楽器の紹介と上方の寄席囃子を紹介します。

☞コロナウイルス感染症対策として、寄席囃子教室で全員参加による扇子・手ぬぐいの実演指導(見立て体験) 一番太鼓リズム体験をご指導いたします。



■ 漫 才

会場の子どもの気持ちを高めようとする楽しい漫才が始まります。上方演芸の専長とも言うべきおしゃべり漫才を、お楽しみください。



■ 上方古典落語

先ずは一席。派手で陽気な上方落語を聞いて頂きます。落語は、60cm×60cm の座布団の上で演じられる世界です。一人の落語家が複数の登場人物を演じわけ、さまざまな情景を表現する落語特有の世界をご覧ください。



■ 大喜利 ～アイウエオ作文を創ろう～ (ワークショップ)

子ども達による大喜利のコーナーです。5つの文字を使ってショートストーリーを創り、発表しましょう。

☞コロナウイルス感染症対策として、客席からみんなでお題を出し合い 作文を創っていきましょう。漫才師が解り易く解説し、みなさんを作文の完成へと導いてゆきます。

■ あなたも今日から漫才師 ～漫才体験しよう～ (ワークショップ)

子ども達による漫才発表のコーナーです。プロの漫才師のサポートを受けながら当意即妙な会話がたのしい漫才を実演していただきます。

☞コロナウイルス感染症対策として、創作漫才発表コーナーが実施できない場合、漫才師が児童・生徒のみなさんに漫才レクチャーをします。後日、お友達同士で漫才を創り発表する機会を創っていきましょう。

■ 色 物

色物は、太神楽や日本手品 など日本の伝統芸能を子どもたちが最後まで退屈せずに寄席を楽しめるよう構成いたします。



■ 上方寄席 「はめもの落語」

上方落語特有の賑やかな《はめもの落語》に出会って頂きます。はめもの落語とは、落語を演じる落語家の語り口に合わせて、囃子方が効果音を演奏し情景描写する事です。演劇的手法と臨場感あふれるステージに、子どもたちは自然と落語の世界へ誘われて行きます。賑やかで華やかな、上方落語の真骨頂です。



演目：七度狐（しちどきつね）

ひどい目にあうと七回仕返しをする悪狐。二人の旅人が投げたお椀に憤慨した狐は様々な悪巧みを仕掛けます。悪狐、化かされた旅人、それを眺めるお百姓 それぞれの視点が交差する愉快なお噺です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

■公演に参加するための工夫

- ① 実演体験者に関しては、テキスト 創作ノート(仮)を配布し、活用していただきます。また、解りやすい学習用の DVD を配布いたします。本公演までの間 それらを使って継続的に創作・お稽古をして頂きます。尚、希望校には先生対象のレクチャーの時間を設けさせて頂き、フォローアップして参ります。
 - ② 公演当日、実演体験者として参加いただく子ども達は、法被(はっぴ)を着用して頂きます。法被(はっぴ)の代わりに 学校でお使いのタスキを付けて頂く場合もあります。ワークショップを経験し、本公演まで頑張ってお稽古した子ども達の成果を発表する場として 伝統芸能らしい衣装で出演して頂きます。
 - ③ 寄席の名前は、ワークショップ公演の中でみんなで考えます。その名前は、最後まで大切に使います。本公演当日は、寄席の名前の付いた提灯を体育館の玄関に飾ります。
 - ④ 非接触型鑑賞会を要望されている学校様には 公演内容の一部変更・割愛をいたします。特に児童・生徒との共演部分に関しましては、ワークショップ公演の参加方法も含め 学校様としっかりと連携して取り組みを致します。 (ワークショップへの参加の仕方で明記) 共演部分が変更・割愛される場合であっても、児童・生徒全員が参加できるプログラムを盛り込み、参加者が楽しめる作品を創ります。
- 各学校の要望に従いプログラムや参加方法を工夫をいたします。
公演の内容に基づき、参加の仕方 や 参加内容の工夫 等 各校のご事情に 合わせて選択頂けます。各校と綿密な連携の上 本公演にご参加頂きます。また、講師（出演者）スタッフ一同、フェイスマスクの装着 等、対策を講じて、新型コロナウイルス感染症持ち込まないよう 精一杯努力致します。

■本公演までの興味付けとしての事前学習

図書館で落語の本を見つけ、どんなお噺があるのか調べてリストアップしてみましょう。
また、当日、登場する落語が、どんなお噺なのかを事後に調べるのも楽しい作業になると思います。放送委員がお昼の放送で落語に関する書籍の紹介や落語のお噺を紹介し、本公演への興味付けをするとより効果的です。

■本公演はワークショップのお稽古から始まります。

公演時間・開演時間・休憩の有無・事後交流などの御相談も承ります。
体験・参加することが本公演への理解を進める基本ですが、御事情によって一部・全部を割愛する事も可能です。午前;ワークショップ 午後;本公演 本公演の中に参加できるワークショップを盛り込む などご希望を承ることも出来ます。DVD やテキストを使った非接触型ワークショップ(訪問はいたしません)も対応可能です。
弊社もできる限りのサポートをいたしますので、学校様のご要望を伺いながらプログラムを一緒にお創りします。多数の公演実績を誇る弊社ならではのサポートと配慮で各校の抱える心配を支えます。

基本的な提案に基づきながら各学校の御事情に従い相談を重ねながら最も適切で効果的なワークショップ・本公演に取り組んで参ります。また、公演当日及びワークショップ時には、「文化芸術による子供育成総合事業」の経験者がスタッフとして同行いたします。

児童生徒とのふれあい

- ① 『寄席の名前をつけよう』 ワークショップ活動の一環で、参加者全員に自分たちが参加する寄席の名前を考えて頂きます。名前が決まると愛着もひとしおです。学校全体を巻き込んでゆく公演にする為 先ずは寄席の名前をつける所から始めます。
☞ ワークショップ公演にお伺い出来ない学校様は、DVD で活動される際、寄席の名前を決めて頂きますようお願い申し上げます。
- ② 出演者との触れ合いコーナーとして、事後交流会を公演終了後 約10～20分程 設けたいと考えています。公演内容に対する質問コーナーやワークショップコーナーをもう一度 体験するなど 心に残る落語鑑賞を取り組んでゆきます。特に前座時代から修行を経験した者達が語る演芸への熱い思いは子ども達の心にも深く浸透する事と思います。
☞ 参加については自由です。お礼のお言葉なども事後交流会と捉えて下さい。
- ③ プログラムの中に全員で見立体験するコーナーを設ける事も出来ます。
☞ 落語はそこにはない存在を有るように見立てる芸術です。全員が手と手のひらを使って上手におうどんを食べたり あつあつの焼き芋を食べて頂きます。

④ 放送室にお邪魔します！

本公演でお伺いした際、お昼の放送時間に出演者がお邪魔して公演の見どころ・聞き処をアナウンスします。みんなで楽しみに待つことが狙いです。

☞ 希望される学校様だけの企画です。お昼の放送時間の約5分程度を使って、午後から行われる公演の見どころ・聞き処をアナウンスします。コロナウイルス感染症対策として、放送室が密にならないよう配慮して行います。

児童・生徒によるさまざまな実演体験や進行と運営 などを通じて、伝統芸能を継承する実演家たちの思いをご理解いただくところから 公演は始まります。公演の鑑賞だけではなく、この部分から参加する事で、より多くの子供達に演芸と係わる体験を持って頂きたいと考えています。上記のふれあい企画から実施できる企画をお選びご参加下さい。また、割愛する事も可能です。無理のない範囲でご検討下さい。